



知ってとくとくヒヨドリ対策

—鳥獣対策の最難関—

はじめに

ヒヨドリは果樹類や野菜などの園芸作物を食害する厄介者です。園芸作物は相対的に販売単価が高く、被害金額も大きくなりがちです。しかし多くの産地において、いまだ十分な対策が実施されていないのが実情です。

鳥類は空を飛ぶため**行動範囲が広く**、特にヒヨドリなどの小型の鳥類は**個体数が多く狭い隙間もくぐり抜ける**ため、防除は困難を極めます。いわば「**手でツール**」と「**農薬による駆除**」ができない害虫のようなもので、鳥獣対策の最難関であるといえるでしょう。



○ヒヨドリの生態を知ろう

形態と行動

- ・体長25～28cmくらい。
- ・日本列島から朝鮮半島南部にかけて分布する。
- ・樹上ですごし、**上下にスイングするような特徴的な飛び方**をする。
- ・ハチドリのようなホバリング（はばたきながら空中に停止する）をすることもできる。
- ・大きな声で「**ヒーヨ、ヒーヨ**」「**ピー、ピー**」と鳴く（名前の由来）。

食べ物

- ・昆虫、果実、花や蜜などを食べ、**甘いものを特に好む**。
- ・ガマズミやナンテンなどの木の実（漿果類）が大好物。
- ・農作物では**果樹や果菜類**の被害が目立ち、餌が不足する冬期を中心に**アブラナ科の葉菜類**にも被害が発生する。

繁殖と渡り

- ・6～8月頃が繁殖シーズンで、樹上に営巣して4～5個の卵を産み、14日程度でふ化し10日程度で巣立つ（営巣開始から1か月くらい）。
- ・東北以北の涼しい地方で繁殖することが多く、**秋になると若鳥も一緒に関東以西の温暖な地方に渡ってくる**（渡りの性質としては「漂鳥（ひょうちょう）」に分類される）。
- ・ツバメなどのいわゆる「渡り鳥」のようなはっきりとした渡りのパターンはなく、その年の気候や餌の状況で変化する。

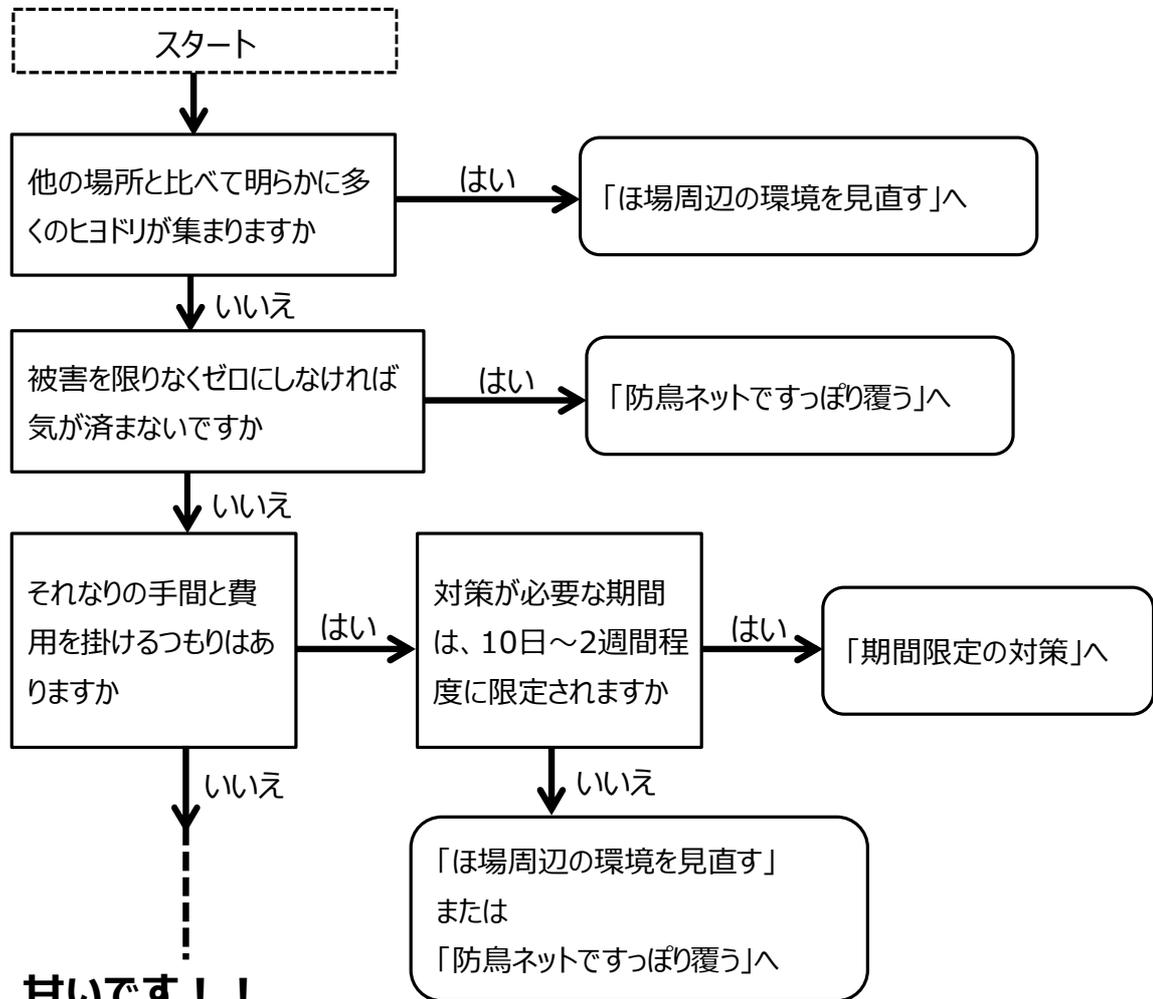
個体数や被害の年次変動が大きいことが特徴



○まずは対策の基本方針を確認しよう

労力や費用を無駄にしないために、まずは基本方針をよく確認し、計画的な対策を考えましょう。やみくもに始めるのはよくありません。また、対策は地域である程度まとまって実施することがポイントです。対策に無関心な人がいると餌を提供しているようなもので、周りの農家の努力が報われません。

下のチャートで自分自身のほ場で必要なことは何か、確認してみましょう。



甘いです!!

楽して効果が上がるヒヨドリ対策など、どこを探してもありません。

○ほ場周辺の環境を見直す

ヒヨドリの最大の天敵は、小型のタカやハヤブサなどの猛禽類です。そこで猛禽類に見つかりにくいように、1日の大半を常緑の樹木に身を隠して過ごします。

1回当たりの農作物の食害時間はほんの数秒で、樹木からほ場に飛来し、**ちょんちょんとついたらすぐに樹木に逃げ戻る**ことを繰り返します。

なので…



ほ場周辺の常緑の樹木が隠れ家

- ・被害が著しいほ場の近くには、必ず多くのヒヨドリが身を隠す樹木がある
- ・隠れ場所からの距離で、農作物の被害程度が大きく異なる。



- ・ほ場周辺の**不要な立木は、できるだけ伐採**しましょう
- ・ほ場周辺の山林や防風林に**収穫残さを捨て**ないようにしましょう
- ・防風林の下草刈り、枝払いなどを行って見通しをよくしましょう
- ・山林や防風林に隣接するほ場から優先的に対策を進めましょう（防鳥ネットを設置する、ヒヨドリが多い時期を避けた作型を割り当てるなど）



荒れた山林や防風林は特に絶好の隠れ家となるので、地域で話し合っ**て下草刈りなどの管理**を検討する

○防鳥ネットですっぱり覆う

最も確実な対策は、ほ場を防鳥ネットで覆うことです。費用が掛かる上、作業性が損なわれるのが難点ですが、**被害はほぼ解消**されます。**30mm以下の目合い**を使用し、**作物との間に空間を設ける**ことがポイントです。

- ・ブドウやナシなどは**棚を利用して設置**し、こまめに補修すれば持続的に被害を抑えることが可能
- ・カンキツ類やトウモロコシなどには農研機構の防鳥網設置マニュアル「**らくらく設置3.5**」が有効
- ・キャベツなどの露地野菜はべたがけし、所々をポールで浮かせて空間をつくる



果樹園に「らくらく設置3.5」を設置した様子
(写真の出演：「農研機構の鳥害対策」)

○期間限定の対策

音響や光による脅し、目玉やトラの形をした風船、タカのデコイカイトなどが効果的とのうたい文句で販売されていますが、残念ながら**持続的な効果は期待できません**。モモやトウモロコシなど、加害される期間が限定的な作物ならば、多少は効果が得られる可能性があります。

どうしてもこのような「脅しグッズ」で対策をしたいという場合は、以下の3点が上手な使い方のポイントとなります。

- ① 10日～2週間程度の期間限定の対策と割り切る
- ② 数種類を併用し、毎日のように設置場所等を変えて**違和感を与え続ける**
- ③ 時期が過ぎたらすみやかに片付ける



バードパンチャーなどの脅しグッズは時期限定で、違和感を与え続ける

○捕獲・駆除はあまり意味がない

ヒヨドリは移動性が高く、餌を求めて次から次へと移動してくるため、**捕獲・駆除による対策はほとんど意味がありません**。繁殖期に巣立った若鳥の大部分は翌年の春までに死亡することから個体数増加が問題ではなく、ヒヨドリが集まってきてしまう環境が変わらない限り被害は続きます。

猟銃の使用は駆除の効率は高くないものの追い払い効果があり、「人間と鳥との緊張関係」を保つことができます。ただし猟銃が使用できる区域は限定的で、安全確保が最優先となります。

- ・どうしても捕獲したい場合は、狩猟免許（網猟など）を取得し、市町村に申請して捕獲許可を受ける必要がある。
 - ・毒劇物を使った殺傷（ランネートD Fを混入したジュースでの誘引殺など）は**鳥獣保護管理法の禁止事項に抵触する違法行為**。
- … 人身被害の恐れもある非常に危険な行為なので、絶対に実施しないように！！**

2018年12月 第1版発行

●お問い合わせについて

愛知県農業総合試験場 企画普及部 広域指導室

所在地：〒480-1193 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-1

電話：0561-62-0085（内線346） FAX：0561-63-0815